

ラーニング・ポートフォリオ活用術

—自ら学び続ける力を育むために—

田中正弘（筑波大学）
令和3年度札幌医科大学FD教育セミナー(第3回)
令和3年11月16日(火)



01

ポートフォリオ活用の動向

02

ポートフォリオ活用の理由

- ① 外部評価への対応のため
- ② 教育改善の根拠とするため
- ③ 学生の自己省察を促すため

03

学修のための評価

04

まとめ



● Part 1 ●

ポートフォリオ活用の動向





ポートフォリオ活用の動向（1/4）

看護教育におけるポートフォリオ活用の動向を文献レビューによって分析した，石堂・藪下（2020:63）によると，

「ポートフォリオに関する看護の文献は2000年以降緩やかに増加し，最多である解説は**臨床での活用**に関する内容が多く，論文では看護基礎教育の**実習での活用**が多く抽出された。活用の対象は看護学生が半数を占め，ポートフォリオは**記録の負担になるなどの課題**はあるが，**成果の可視化，リフレクション，周囲との共有などに有効であった**」

出典：石堂たまき・藪下八重（2020）「看護教育におけるポートフォリオ活用の動向：文献レビュー」『佛教大学保健医療技術学部論集』14, 63-75



ポートフォリオ活用の動向（2/4）

ポートフォリオは、

- ✓ 特に「臨床（臨地）実習」の科目で用いられている。
- ✓ 記録するのが教員・学生にとって負担である（デメリット）。
- ✓ 学生のリフレクションを見える化できる（メリット）。

なぜ、実習科目で活用？

なぜ、リフレクションを見える化？



ポータルフォリオ活用の動向（3/4）

鳥取大学医学部医学科において地域医療体験実習にeポータルフォリオを導入した成果を分析した，井上ほか（2017: 35）によると，

「学生はロールモデルの認知，地域医療についての理解，学ぶ姿勢などを学んでいた。それを促したのは，**学生の言葉から学びが始まったこと**」にある。

なぜ，学生の言葉から学びが始まる??

出典：井上和興・朴大昊・松澤和彦・浜田紀宏・谷口晋一（2017）「地域医療体験実習にeポータルフォリオを導入することで学生にどのような学びが生まれるのか？」『鳥取大学教育研究論集』7, 35-42



ポートフォリオ活用の動向（4/4）

臨地実習における看護学生の内省傾向をポートフォリオの自由記述の分析を通して明らかにした，李ほか（2016: 30）によると，

「振り返りの大切さに気づいた学生が，より高い看護実践能力の向上を目指して努力する内省が読み取れた」

「ポートフォリオでは**思考過程が可視化**されるので，看護実践内容を自ら俯瞰することで成長や学びを認識でき，自分の価値ある変化・変容を確認することができる」

出典：李慧瑛・深田あきみ・新橋澄子・横山美江・橋本智美・下高原理恵・西本大策・緒方重光（2016）「臨地実習における看護学生の内省傾向—ポートフォリオ導入後の成長報告書の内容分析から—」『看護科学研究』14(2), 20-31



活用のメリット・デメリット

メリットは、学生の学びのプロセスを可視化できること。

- 学びのプロセスを可視化したい科目に用いると良い。

デメリットは、活用に多くの負荷がかかること。

- 活用する科目数は限定した方が良い。



知識の質と量を測るだけなら、従来の小テストで十分では？



ポートフォリオの定義 (医学教育情報館)

学習者の成果や省察の記録，指導者の指導と評価の記録などをファイルなどに蓄積・整理するもの

ポートフォリオは基本的に**学習のためのツール**であり，評価が学習者と指導者，あるいは同僚間のやり取りを通じて継続的になされていく。学習者は，自らの臨床経験を学びに変えていく際に，具体的事例に関して，より一般化された理論や教訓と行き来しながら理解を深めていく。その理解の深化プロセスにおいて，自らと，あるいは同僚や指導者との**対話を言語化**したものがポートフォリオである。

出典：医学教育情報館（2021）「ポートフォリオ」<http://www.meal-jsme.jp/glossary/index.php/ポートフォリオ>，（アクセス：2021年10月27日）

ポートフォリオに関連する教育学用語



形成的評価

学期の途中で実施される
(学修のための) 評価



学修成果

学修期間終了時に学習者が
できるようになったこと



ルーブリック

学びの評価基準を表にした
もの



自己省察

自らの学びを（反省的に）
自己評価すること



パフォーマンス評価

知識や技能を用いた活動を
評価すること



フィードバック

活動の問題点や改善点につ
いてコメントすること





● Part 2 ●

ポートフォリオ活用の理由





①外部評価への対応のため（1/3）

外部評価（特に分野別評価）への対応のため，ポートフォリオの導入・活用は（mustであれshouldであれ）必須といえる。

医学教育分野別評価基準日本版（Ver.2.33）の該当項目

- 知識，**技能および態度**を含む評価を確実に実施しなくてはならない（B 3.1.2）
- 様々な評価方法と形式を，それぞれの**評価有用性に合わせて活用**しなくてはならない（B 3.1.3）
- 必要に合わせて**新しい評価方法**を導入すべきである（Q 3.1.2）

◆ 技能や態度は従来のペーパーテストでは測りにくい！ よって，技能および態度を評価するのに適した新しい評価方法を導入すべき！

出典：日本医学教育評価機構（2020）「医学教育分野別評価基準日本版Ver.2.33 世界医学教育連盟（WFME）グローバルスタンダード2015年版準拠」



①外部評価への対応のため（2/3）

医学教育分野別評価基準日本版（Ver.2.33）の該当項目



- 目標とする学修成果と**教育方法に整合**した評価である（B 3.2.1）
- 目標とする学修成果を**学生が達成していることを保証**する評価である（B 3.2.2）
- 学生の**学修を促進する評価**である（B 3.2.3）
- 形成的評価と総括的評価の適切な比重により，学生の**学修と教育進度の判定**の指針となる評価である（B 3.2.4）
- 学生に対して，評価結果に基づいた時機を得た，具体的，建設的，そして公正な**フィードバックを行う**べきである（Q 3.2.2）

- ◆ 実習科目に適した評価が「学修のための評価」になっていること！ そして，その評価は学修の過程を把握できるものであり，かつ教員と学生のコミュニケーション・ツールになっていること！

出典：日本医学教育評価機構（2020）「医学教育分野別評価基準日本版Ver.2.33 世界医学教育連盟（WFME）グローバルスタンダード2015年版準拠」



①外部評価への対応のため（3/3）

看護学教育評価基準の該当項目

- 評価は学生にフィードバックされている（評価基準2， 7）
- 教育目標に対する学習の到達状況について， 学生が**継続的に自己評価**できる体制が整えられている（評価基準2， 20）

◆ 学生が「（4年間）継続的に自己評価」できるようにするためには， eポートフォリオの整備が期待される。

リハビリテーション教育評価機構の評価基準

- 授業科目内容に合致した（客観的）評価方法により実施されている（基準Ⅳ-6）

出典：日本看護学教育評価機構（2021）「看護学教育評価基準」， リハビリテーション教育評価機構（2021）「様式8 自己点検評価報告書」



②教育改善の根拠とするため

ポートフォリオに記載された情報は、各科目やプログラム全体の「有効性」(望ましい学修プロセスを多くの学生が辿っているか)を確認する際の質的データとして活用することができる。

- 課題が見つければ、それが教育改善の根拠となる。

※ポートフォリオで「望ましい学修プロセスを多くの学生が辿っているか」をどのように確認するのか？

- 学修の途中で適宜、学生に「何ができて何ができないか」を振り返ってもらい、ポートフォリオに記述してもらう。

- ◆ できるようになったタイミングは望ましいか？
- ◆ 現時点でまだできなくても大丈夫か？



③学生の自己省察を促すため

ポートフォリオの活用によって、学生の「自己省察」（何ができて、何ができないか、そして、これから何をすべきか）を促したい。

- なぜなら、自らの学力を正しく自己評価できる能力は、知識の陳腐化が早い21世紀を生き抜いていく上で必要な、「学び続ける力」につながるため。

ポートフォリオを自己省察に用いる上で「学修のための評価」という考え方が重要となる。



● Part 3 ●

学修のための評価





学修のための評価

「学修のための評価」とは、ポートフォリオに記載された**情報を学生の学修成果を高める目的に用いる**ことを意味する。

学修のための評価に必要な要素は、下記の通りである。

- ① 科目の到達目標を学生が理解している。
- ② 評価が学修の途中で行われる（形成的評価）。
- ③ 評価の情報を学生に伝える。
- ④ 評価に学生も加わる。
- ⑤ 評価の情報を学びの改善に用いる。

出典：エスメ・グロワート著，鈴木秀幸訳（1999）「教員と子供のポートフォリオ評価」
論創社



①科目の到達目標を学生が理解している

科目の到達目標を明確化する（シラバスに記載）。

- （例）学生は〇〇の知識を用いて，△△ができる。

その到達目標を学生が理解する。

- 到達目標は平易な記述を心がける。
- ルーブリックなどの形で提示する。
- ③評価の情報を学生に伝える（意外と難しい）。

※到達目標を学生が正確に理解していない場合，自己評価に問題が生じる。



②評価が学修の途中で行われる

学修のための評価は学修の途中で行う。

- その評価の情報を学びの改善に用いるため。

教員は学生の学修プロセスを観察し、その状況を評価し、かつ、その結果を学生に適宜伝えていく必要がある。

- 教員の**フィードバックが不可欠**といえる。

④評価に学生も加わる（その理由は後述する）。

- 自己評価の指導が不可欠といえる。

⑤ 評価の情報を学びの改善に用いる



自らを知る

自己評価を正しくできる学生は、自らの学びの利点や欠点を知ることができる。



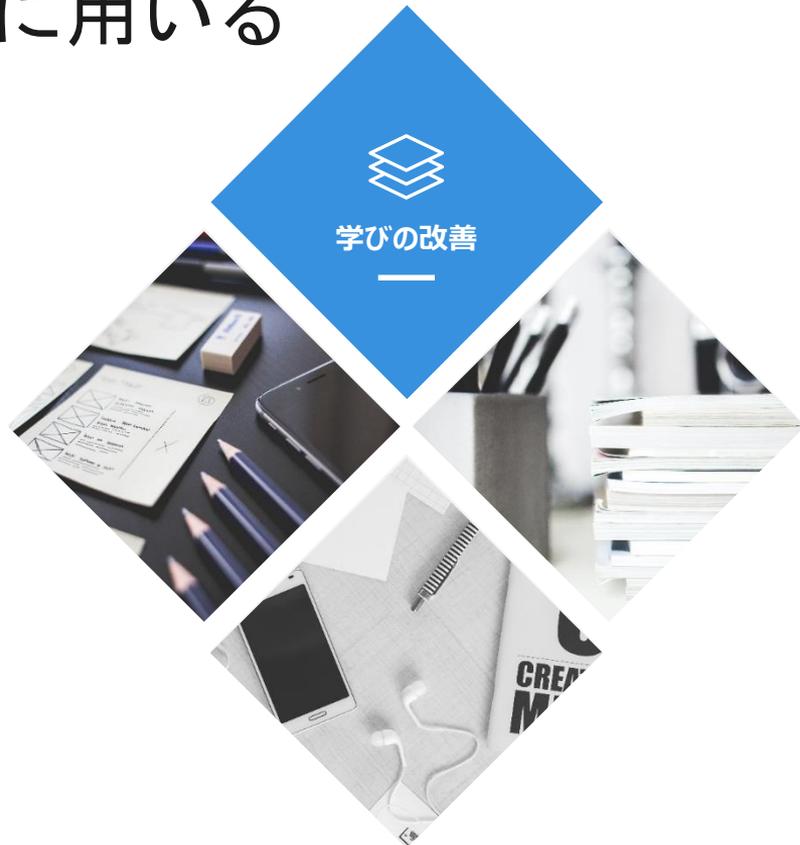
教員の役割

学生が、自らの利点を伸ばしつつ、欠点も改める方法（学びの改善）を探求できるようにする。



小道具

自己評価を正しく行うための便利な「小道具」に、ルーブリックがある。





ポートフォリオの例

評価項目	評価の観点	評価対象	実習前の自己評価	実習中の自己評価	実習後の自己評価
複数患者担当実習	自己目標と学習内容の設定	実習記録（様式3）をもとにした学生の発言			
	実習時の参加姿勢	患者への態度と報告の状況			
	2日目の行動プランの立案	実習指導者への相談状況と実習記録（様式5）			
	実習記録の内容	実習記録（様式4）			
	下記の質問から、二つ選び、回答してください。 どの項目が自分の最も良い成果ですか？ それはなぜですか？ どの項目が自分の最も重要な成果ですか？ それはなぜですか？ どの項目が自分の最も満足な成果ですか？ それはなぜですか？ どの項目が自分の最も不満足な成果ですか？ それはなぜですか？ どの項目への取組が自分を最も成長させましたか？ それはなぜですか？				

出典 : Suskie, Linda (2009) *Assessing Student Learning: A Common Sense Guide, second edition*, San Francisco: Jossey-Bass.



パフォーマンス評価

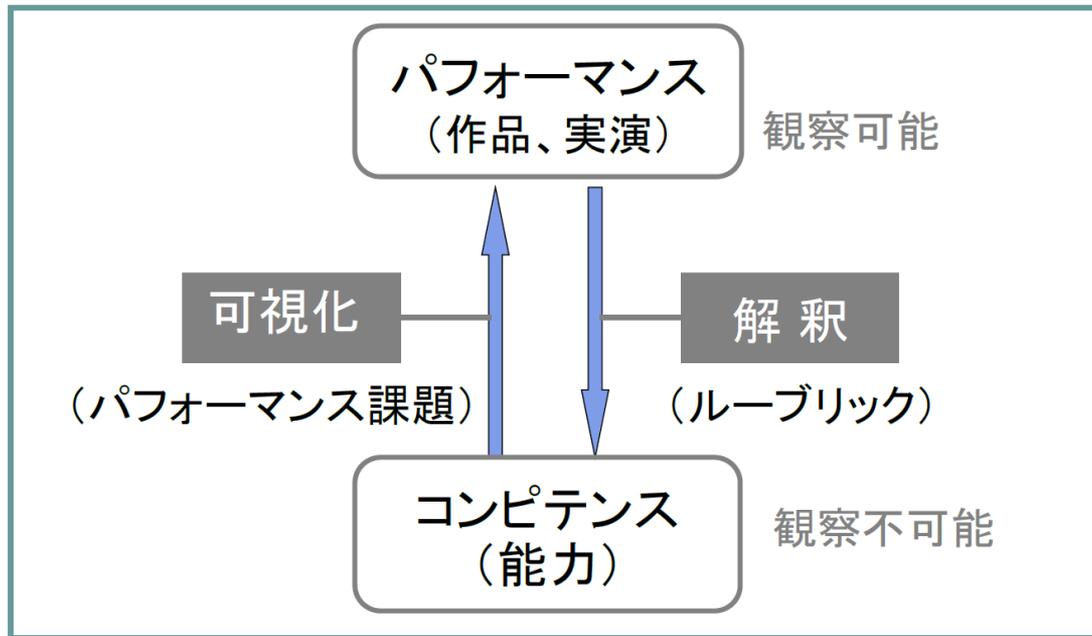
実習科目で学生の活動を評価する場合に、「パフォーマンス評価」を実施することとなる。パフォーマンス評価は、フィギュアスケートの採点方法に近いものである（松下 2013）。

- 数分間、実際に演技させる。
- 複数の専門家（審査員）が、評価基準に従って、それぞれ採点する。

出典：松下佳代（2013）「学習成果の評価の方法—パフォーマンス評価を中心に」平成25年度（第16回）弘前大学FDワークショップ，13頁。



パフォーマンス評価の概念図



出典：松下佳代（2013）「学習成果の評価の方法—パフォーマンス評価を中心に」平成25年度（第16回）弘前大学FDワークショップ，11頁。



主観的評価を客観化する工夫

ルーブリックを用いても、パフォーマンス評価は主観的になりやすい。

- できるだけ**多くの人**が**評価**することで、客観性を高める必要がある。
 - ✓ フィギュアスケートでは、複数人で評価し、最も高い評価と最も低い評価を除いた平均をとることで、評価の客観性を高めている。

※教員だけでなく、**学生も評価者になってもらう**。

- そのために、評価方法に関する共通理解が重要となる。
- 各学生が自らの学力を正しく自己評価できるように、ポートフォリオやルーブリックなどに修正が必要となる。

修正すべき項目

ポートフォリオを用いて正しく自己評価できる能力を修得するため、ポートフォリオの修正に加え、以下の修正も必要となる。



ループリックの修正



授業の到達目標の修正



DPの修正



成績評価方法の修正



ルーブリックの修正

ルーブリックの「特徴の記述」は簡潔明瞭であるべき。
以下の点が見られる場合、修正が必要となる。

- 「特徴の記述」の解釈が、教員と学生または学生間で異なる。
- 評価結果が、教員と学生または学生間で大きく異なる。
- 「特徴の記述」に書かれていない知識・技能で重要だと思われるものが、ポートフォリオの中に見つかった。



授業の到達目標およびDPの修正

ポートフォリオに記載される情報と照合して、授業の到達目標の妥当性、適切性、**実現可能性**を検討する。

- 実現可能性とは、ある一定以上（例えば8割）の学生が到達できる難易度に設定すること。

到達目標の修正が蓄積されてきたら、DPの修正も検討する。

- 本来は、DPに合わせて、到達目標を設定すべき。しかし、DPは現実に即していない場合も多々ある。



成績評価方法の修正

ポートフォリオの評価結果をどのように成績評価に反映させるかは、
悩みどころ。

- 学修プロセスをどのように評価すべきか。
- 否定的な自己評価をどのように評価すべきか。
- 自己評価と他己評価のズレをどのように評価すべきか。
- 自己評価の証拠資料の質をどのように評価すべきか。

ただし、従来のペーパーテストで測れない能力（コミュニケーション能力など）の評価にポートフォリオを活用することは重要である。



● Part 4 ●

まとめ





まとめ (1/2)

分野別評価への対応のため、ポートフォリオの活用は避けられないといえる。

- しかし、著しく手間のかかるポートフォリオを嫌々活用したとしても、それは教員にとっても、学生にとっても**不幸なこと**でしかない。

従って、ポートフォリオの活用は「学修のための評価」（学生の自己省察を促す活動）を浸透させるため、と考えることが望ましいだろう。



まとめ (2/2)

ポートフォリオは、学生のこまめな記述と、教員の丁寧なフィードバックが欠かせない。

- 多くの科目で同時にはじめるのは、お勧めしない。

よって、ポートフォリオを活用するのは、**各プログラムで一つの実習科目だけとする**、ことを推奨したい。

- ただし、科目担当教員のみならず、できるだけ多くの教員が関わり、学生の学びのプロセスの把握を共有するのが理想である。



2020

THANK YOU

● ご清聴，ありがとうございました。 ●

Speaker:
Masahiro Tanaka